

公益財団法人 日本バレーボール協会
第8期・2017年度事業計画
(2017年4月1日～2018年3月31日)

1. 事業方針

本会は、わが国におけるバレーボール界を統轄し代表する団体として、グローバル化、情報化、少子高齢化、格差拡大などの急激な環境変化の中、バレーボール競技の普及、振興および発展を図り、児童・青少年から高齢者に至るまで、国民の心身の健全な発達、維持および人間性の向上に寄与し豊かな社会の形成に貢献することを目指す。

その為に、昨年度策定された長期計画「2050構想」に基づく「2020中期計画」の本格実施初年度となる2017年度は、以下の中期計画基本方針に基づき事業を推進する。

<中長期計画の数値目標>

	I プレーヤー人口	II 事業規模	III 競技力	IV 社会貢献	V 高潔性
長期計画 2050年構想	登録選手数 100万人	事業規模 100億円	4つの 金メダル	支えるバレー ボールファミ リー人口 100万人	違法行為・ 暴力・体罰 0
中期計画 2020中期計画	登録選手数 50万人	事業規模 30億円	4つの メダル	支えるバレー ボールファミ リー人口 70万人	違法行為・ 暴力・体罰 0

—5つのアクション—

■「東京2020メダル獲得」に向けた強化新体制での着実な歩み

- ・人心を刷新するための新体制とチームコアの更なる充実に向けた取り組み

■楽しく始められて、世界につながるバレーボールを具現化する体制作り

- ・指導普及、発掘育成、強化、技術研究などを統括する「技術本部（仮称）」を設立し新たな一歩を踏み出す（楽しいバレーボールの指導方法の確立と実践、指導方法の基準作り等）
- ・ビーチバレーボールの普及、強化、ファン増加及びその為の環境づくり

■事業運営体制を見直し、各種事業レベルの向上

<バレーボールビジネスの拡大>

- ・国内/国際大会の見直しと再構築（増客化、権利構造）
- ・メディア露出、広報活動、対スポンサー活動などバレーボールのビジネス化への取り組み

<バレーボールを支える人々の環境整備>

- ・指導者育成システムの構築
- ・審判員の計画的育成や登録システムの改善による質の向上
- ・登録者サービスや各種機能の向上による登録制度の改善

■上記方針等バレーボール界全体の意識統一の為の伝播活動

- ・哲学と理念の共有による本会と加盟団体の更なる成長

■バレーボールのプレゼンスの向上

- ・外部団体への積極的アプローチ（日本体育協会、JOC、FIVB、文部科学省、スポーツ庁ほか）

No.	表記	正式名
(1)	JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会
(2)	FIVB	国際バレーボール連盟
(3)	AVC	アジアバレーボール連盟
(4)	NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター
(5)	JADA	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構
(6)	Vリーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

2. 事業内容

(1) 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

①日本代表チーム及び選手の育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行う。

1) 男子・女子シニア日本代表チーム強化合宿

本年度は2020年の東京オリンピックでのメダル獲得を視野に入れ、男子、女子チームとも新体制でスタートする。隔年開催のアジア選手権でまず男女とも優勝を目標とし、今年の集大成として「ワールドグランドチャンピオンズカップ2017」では男女とも表彰台、男子についてはFIVB世界選手権2018の予選通過を必須目標に加え選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に80日間実施

海外合宿・アメリカほかで30日間実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に60～70日間実施

海外合宿・アジア圏で10日間実施

注) シニアチームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子・女子U-23日本代表チーム強化合宿

2017年度に開催される第2回アジアU-23選手権大会及び第3回世界U-23選手権大会の出場を目指し、選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCを中心に50日間実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に60日間実施

注) U23チームとは、2017年の大会出場を予定するため1995年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

3) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

2017年度に開催されるユニバーシアード大会(2年に1回開催)、また、男子はアジア東部地区大会でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCほかで10日間実施

■女子：国内合宿・NTCほかで20日間実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

4) 男子・女子ジュニア日本代表チーム強化合宿

女子チームは第19回世界ジュニア女子選手権大会でのメダル獲得、来年度第19回アジアジュニア選手権大会(U-20)でのメダル獲得を目標として選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCほかで30日間実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に45日間実施

注) ジュニアチームとは、男子が1997年1月1日以降に、女子が1998年1月1日以降に

出生した選手で構成される日本代表チーム

5) 男子・女子ユース日本代表チーム強化合宿

第15回世界ユース選手権大会でのメダル獲得を目指し選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTCほかで30日間実施

■女子：国内合宿・NTCを中心に30日間実施

注) ユースチームとは、2017年の大会出場を予定するため、男子が1999年1月1日以降に、女子が2000年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム。

②競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓蒙、情報発信

③将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手発掘事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施する。

④競技力向上にかかわるバレーボール技術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の体力測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案と提言を行う。

2) 日本チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握を行う。

3) トレーナーの育成、教育を行い、日本代表チームに派遣する。

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤の手配を行う。

5) アンチ・ドーピングの啓蒙と普及及び研修を行う。

6) 日本開催の国際大会及びビーチバレーボールを含む主要国内大会で日本代表選手を中心にドーピング検査を実施する。

⑤日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手強化合宿の効果を検証するとともに、実戦(試合)を経て得られる技術、戦術ほか総合的な競技力向上を目的として以下の各大会に日本代表選手団を派遣する。

1) シニア日本代表チーム

■男子：FIVB ワールドリーグ 2017・2nd グループ

(スロバキア、日本、中国、6/2～18 及び決勝 Final 4 6/23～25)

第19回アジア男子選手権大会(インドネシア、7/24～8/1)

FIVB ワールドグランドチャンピオンズカップ 2017(名古屋、大阪、9/12～17)

FIVB 世界選手権 2018 アジア男子最終予選(東京、8/19～24)

■女子：FIVB ワールドグランプリ 2017・1stグループ

(オランダ、日本、香港、7/14～23 及び決勝 中国、8/2～6)

第19回アジア女子選手権大会(フィリピン、8/9～17)

FIVB ワールドグランドチャンピオンズカップ 2017(東京、名古屋、9/5～9/10)

2) ユニバーシアード日本代表チーム

■男子・女子：第29回ユニバーシアード競技大会(台北、8/19～30)

■男子：東アジア地区男子選手権大会(モンゴル、6月予定)

3) U-23 日本代表チーム

■男子：第2回アジア U-23 選手権大会(インドネシア、5/2～10)

第3回世界 U-23 選手権大会(エジプト、8/18～25)

■女子：第2回アジア U-23 選手権大会(タイ、5/13～21)

第3回世界 U-23 選手権大会(スロベニア、9/10～17)

4) ジュニア日本代表チーム

■女子：第19回世界ジュニア女子選手権大会（メキシコ、7/7～16）

5) ユース日本代表チーム

■男子：第15回世界ユース選手権大会（バーレーン、8/18～27）

■女子：第15回世界ユース選手権大会（アルゼンチン、8/18～27）

(2) 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

①国際大会開催事業

1) FIVB 世界クラブ女子バレーボール選手権 2017 神戸大会

FIVB が主催するクラブチームの国際大会。1991年に第1回大会がサンパウロ（ブラジル）で開催されると、1992年にイェージ（イタリア）で第2回大会、1994年にサンパウロ（ブラジル）で第3回大会を行ったのち、2010年のドーハ（カタール）で16年ぶりに第4回大会が開催された。それ以降は1年に1度、世界のトッププレーヤーが「クラブ世界一」を懸けて戦う大会として、世界各地で盛り上がりを見せている。11回目の開催となる2017年の神戸大会には、久光製薬スプリングス（開催国選出チーム）とNECレッドロケッツ（アジアクラブ選手権優勝チーム）が出場する予定。

➤開催期間：5月8日（月）～14日（日）

➤開催都市：神戸（グリーンアリーナ神戸）

➤参加国：合計8チーム参加（予定）

アジアクラブ選手権

NECレッドロケッツが出場予定

ヨーロッパクラブ選手権

優勝チーム（1チーム）

南米クラブ選手権

優勝チーム（1チーム）

開催国選出チーム

久光製薬スプリングスが出場予定

ワイルドカード

4チーム

➤試合数：延べ24試合（予定）《1日4試合×6日》

2) FIVB ワールドリーグ 2017

FIVB は、男子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、第二グループ予選ラウンドの第2週（プールE2）をFIVBと協力して開催する。

➤開催期間：6月9日（金）～11日（日）

➤開催都市：高崎（高崎アリーナ）

➤参加国：日本、スロベニア、トルコ、韓国

（選手団60人、競技役員6人、計66人が来日予定）

➤試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

3) FIVB ワールドグランプリ 2017

FIVB は、女子バレーボールの世界一を決める本大会を毎年開催している。本年の日本開催は、第一グループ予選ラウンドの第2週（プールD1）をFIVBと協力して開催する。

➤開催期間：7月14日（金）～16日（日）

➤開催都市：仙台（カメイアリーナ仙台）

➤参加国：日本、タイ、セルビア、ブラジル

（選手団60人、競技役員6人、計66人が来日予定）

➤試合数：延べ6試合《1日2試合×3日》

4) FIVB バレーボール世界選手権 2018 アジア男子最終予選東京大会

2018年の世界選手権出場権（イタリア、ブルガリア共同開催）を懸けた、FIVB バレーボール世界選手権 2018 アジア男子最終予選東京大会をアジアバレーボール連盟（AVC）と協力し、日本で開催する。上位2チームに出場権が付与される。

- ▶開催期間：8月19日（土）～24日（木）
- ▶開催都市：東京（有明コロシアム）
- ▶参加国：日本を含む6チーム
（選手団120人、競技役員12人、計132人が来日予定）
- ▶試合数：延べ15試合《1日3試合×5日》

5) FIVB ワールドグランドチャンピオンズカップ 2017

4年に一度、オリンピックの翌年に開催。世界各国が次のオリンピックへ向け、新たにスタートさせたチームによる最初の世界一決定戦。前年に開催されたオリンピックの最終順位から、大陸別に上位4チームを抽出し、その大陸の世界ランキング最上位チームと開催国日本および国際バレーボール連盟と開催国組織委員会による推薦国（Wild Card）を加えた6チームで競われる。

- ▶開催期間：9月5日（火）～9月17日（日）《男女各5試合日》
- ▶開催都市：東京、名古屋、大阪の3都市
- ▶参加国：4大陸の最上位ランキングチーム、開催国日本、推薦国の計6チーム
（選手団200人、競技役員30人、計230人が来日予定）
- ▶試合数：女子大会 延べ15試合／男子大会 延べ15試合
《1日3試合×5日×男女大会》

6) AVC ビーチバレーボールアジアツアー

アジアツアーは AVC が主催するアジアにおけるビーチバレーボールイベント。毎年東南アジア地区を中心に年間5大会ほど開催されている。アジアツアーで獲得できるポイントは世界ランキングにも大きく影響する為、アジア各国から世界を目指す強豪チームの出場が見込まれる。

- ▶開催期間：10月6日（金）～10月9日（月）
- ▶開催都市：大阪（グランフロント大阪うめきた広場）
- ▶参加チーム：男女各24チーム（最大）
- ▶大会方式：本選＝プールプレー（6プール×4チーム） & *シングルエリミネーション（4ラウンド）
(*)シングルエリミネーション方式：1回負けたら敗退のトーナメント方式

②国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

世界のバレーボール界の統轄組織である FIVB 及びアジアの統轄組織である AVC の理事職及び競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として本会の代表を派遣、世界のバレーボール界の発展に尽力し国際的な貢献を行う。

本年は、FIVB 及び AVC 理事会ほか各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師派遣、FIVB および AVC が主催する大会への競技役員ならびに審判員を派遣する。

2) バレーボールバンク事業

発展途上国へ、競技会で使用したボール、全国のバレーボール愛好者から寄贈されたボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情

報を提供し、発展途上国のスポーツ振興に寄与する。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会（NF）との友好を結び、連携強化を図る。

（3）講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

①ゴールドプラン関連事業

近年の競技人口の減少は憂慮する事態であり、特に小学生、中学生が著しく減少している。競技人口を増やすことは喫急の課題であるため、本会ではゴールドプランを検証・整理し、事業のリニューアルも含めた中期計画を作成する。また、競技人口拡大に向けた新たな取り組みを実施し、講習会や各種教室を通してゴールドプランの充実を図ることを念頭に今年度は以下の事業を実施する。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

小学生のバレーボール未経験者及び初心者を対象に、Vリーグ選手が参加してバレーボール教室を全国10会場で開催する。（開催地については調整中）

2) 全国小中学生一貫バレーボール教室

小中合同のバレーボール教室を実施する。一貫指導の充実とバレーボール人口の増加を図ることを目的として、全国3会場で開催する。（開催地については調整中）

3) 保育園等でのソフトバレーボール実践事業

ソフトバレーボールを通して、幼児期にバレーボールの楽しさを伝えるとともにソフトバレーボール指導者の育成を目的としたモニター事業を展開する。全国9ブロック単位で開催する。（開催地については調整中）

4) 全国小学生バレーボール指導者研修会

小学生の指導者を対象として第一次・第二次・第三次講習会をそれぞれ5会場ずつ、15都道府県で開催する。

5) 全国中学生バレーボール指導者研修会

中学生の指導者を対象として全国中学生指導者研修会を毎年各地で実施している。20都道府県で開催する。

②指導者養成事業

上記のほか各種別の指導者を対象に以下の養成講習会等を開催する。

1) 都道府県別バレーボール指導者研修会

各都道府県の指導者の資質向上を目的に、全国20都道府県で開催する。

2) ソフトバレーボールリーダー・マスターリーダー養成講習会

ソフトバレーボールの指導、審判、競技運営ができる指導者の養成を目的に開催する。

3) 日本体育協会からの受託事業として、日本体育協会公認上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、バレーボール専門教科認定講習会等、資格取得に向けたバレーボール専門科目の講習会を東京と大阪で開催する。

4) 本会公認講師認定講習会・公認講師研修会・公認指導者研修会

本会が開催する講習会の講師を務める指導者を対象として、認定講習会及びスキル向上のための研修会を東京都・大阪府で開催する。

③審判員等養成事業

競技会（試合）における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員を養成するため、以下の講習会等を開催する。

講習会名等	開催期間	開催地・会場等
全国審判委員長研修会・全国6人制審判講習会	29.3.19～3.20	東京体育館・慶応大学中等部
全国9人制審判講習会	29.3.26	住友電工(依頼中)
全国ラインジャッジ研修会	29.5.2～5.4	大阪市中央体育館
国際審判員(候補)審判技術強化事業	29.5.2～5.7	大阪府大阪市
ブロックA級審判員講習会	29.4.1～8.31	全国各ブロックで開催
A級審判員資格取得講習会	29.8月中旬	近畿大学
トップチーム連携事業	29.5月～10月	プレミアチーム・チャレンジチーム
A級審判員研修会(6人制)	29.11.27～12.3	東京都
A級審判員研修会(9人制)	29.11.10～13 29.11.24～27	京都市(女子) 大阪市(男子)

④指導者および審判員資格認定事業

1) 指導者資格認定事業

バレーボールを正しく、安全に、楽しく指導することを目標に、バレーボールの特性を活かしながら本質的な素晴らしさを伝える指導者資格として以下の認定登録を行う。

- 小学生バレーボール指導者資格 ○ソフトバレーボール・リーダー
- ソフトバレーボール・マスターリーダー ○公認講師
- ビーチバレーボール指導者講習会(ビーチバレーボール講習会開催事業参照)

2) 審判員資格認定事業

競技会(試合)における適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員資格として以下の資格の認定と登録を行う。

- A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員 ○C級審判員
- レフェリーインストラクター
- ※ビーチバレーボール審判員(ビーチバレーボール講習会開催事業参照)

(4) 全国大会等国内競技会開催事業

①天皇杯皇后杯全日本選手権大会開催事業(男女大会)

本会に登録する全てのチーム(小学生を除く)が参加可能な、天皇杯・皇后杯の名を冠するに相応しい、国内最高峰に位置づけられている大会である。本年は以下の日程で開催する。

■都道府県ラウンド:

- 開催期間:平成29年4月～7月
- 開催都市:各都道府県内体育館 (1,000チーム・18,000名参加見込)

■ブロックラウンド:

- 開催期間:平成29年9月～10月
- 開催都市:各地域ブロック内体育館 (206チーム・3,708名参加見込)

■ファイナルラウンド:

- 開催期間:平成29年12月15日～17日、23日～24日
- 開催都市:東京(1回戦～決勝) (48チーム・864名参加見込)

②全日本小学生大会(男女大会)

教育的配慮のもとにバレーボールを通じて全国児童の親睦と交流を図ること、バレーボールによる小学生の体力向上とたくましい意欲の醸成に努めること、低学年層から正しいバレーボー

ルの基本技術とチームプレーを体得し、楽しいゲームが出来るように指導することを目的に、以下の日程で実施する。

■都道府県大会：

➤開催期間：平成 29 年 4 月～7 月

➤開催都市：各都道府県内体育館（7,400 チーム・33,540 名参加見込）

■全国大会：

➤開催期間：平成 29 年 8 月 7 日～10 日

➤開催都市：東京他（東京体育館他）（都道府県代表 138 チーム・1,764 名参加見込）

③全国都道府県対抗中学大会（男女大会）

将来のオリンピック選手発掘と中学生バレーボールのレベルアップを図り、各チームとの交流を通して友情を深め、スポーツマンシップの高揚に努めると共に、中学生指導者の研修の場とすることを目的に、以下の日程で開催する。

➤開催期間：平成 29 年 12 月 25 日～28 日

➤開催都市：大阪（大阪市中央体育館他）（96 チーム・1,440 名参加見込）

④全日本高等学校選手権大会（男女大会）

都道府県予選を勝ち抜いた高校日本一を決める大会として以下の日程で実施する。

➤開催期間：平成 30 年 1 月 4 日～8 日（1 回戦～決勝）

➤開催都市：東京（東京体育館）（104 チーム・1,872 名参加見込）

⑤秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（男女大会）

大学在校生で構成されたチームなら全ての大学が参加できる大会として、以下の日程で大学日本一を決める大会を実施する。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

➤開催期間：平成 29 年 11 月 27 日～12 月 3 日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

➤開催期間：平成 29 年 11 月 27 日～12 月 3 日

➤開催都市：東京都（選抜方式にて実施）

⑥前記各競技会に加え本会主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催する。

大会名等	開催期間	開催都市
全日本 9 人制実業団女子選手権大会 全日本 9 人制実業団男子選手権大会（同一開催）	29.7.21～7.24	さいたま市・川越市
全日本 9 人制クラブカップ女子選手権大会	29.7.27～7.30	長野市
全日本 9 人制クラブカップ男子選手権大会	29.8.4～8.6	大阪市
全国社会人西ブロッククラブカップ男女優勝大会	29.10.28～10.30	岡山市
全国社会人東ブロッククラブカップ男女優勝大会	29.11.2～11.5	山田市・関市
全日本 9 人制総合女子選手権大会	28.11.10～11.13	大阪市
全日本 9 人制総合男子選手権大会	28.11.24～11.27	京都市ほか
黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	29.5.2～5.7	大阪市
全日本 6 人制クラブカップ男子選手権大会	29.8.10～8.13	和歌山市
全日本 6 人制クラブカップ女子選手権大会	29.8.11～8.13	福岡市
全国ヤングクラブ優勝大会	29.9 月	大阪市

全国ソフトバレー・シルバーフェスティバル	29.10.7～10.9	さいたま市
全国ソフトバレー・レディースフェスティバル	29.10.27～10.29	ひたちなか市
全国ソフトバレー・スポレクフェスティバル	29.11.10～11.12	米沢市
全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	30.3.2～3.4	町田市
全国ヴィンテージ8'S 交流大会	29.10.20～10.22	御殿場市

⑦公益財団法人日本体育協会等との共催により、以下の大会を実施する。

1) 国民体育大会バレーボール競技

➤日程：平成29年10月6日～9日 開催都市：愛媛県八幡浜市・伊予市・鬼北町

2) 日本スポーツマスターズ2017

➤日程：平成29年9月16日～18日 開催都市：兵庫県神戸市

⑧公益財団法人全国高等学校体育連盟等との共催により、以下の大会を開催する。

1) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

➤日程：平成29年7月28日～8月1日 開催都市：山形県寒河江市・天童市

2) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

➤日程：平成29年7月28日～8月1日 開催都市：宮城県利府町・多賀城市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

➤日程：平成29年8月2日～6日 開催都市：神奈川県平塚市

⑨公益財団法人日本中学校体育連盟等との共催により以下の大会を実施する。

全日本中学校バレーボール選手権大会（男女大会）

➤日程：平成29年8月22日～25日 開催都市：宮崎県宮崎市・都城市

(5) Vリーグ開催及び開催支援事業

Vリーグ機構が主催するVリーグについて、大会の一部開催権を取得し、バレーボールの普及、振興及び本会が行う公益目的事業の遂行に必要な財源調達を図ることを目的として開催する。

同時に、Vリーグ機構が全国各地で開催する大会の競技会運営、適正な判断と円滑な試合運営を行う審判員、技術統計判定員ほかを派遣、Vリーグの開催支援事業を行う。

(6) ビーチバレーボール事業

①競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

2020東京オリンピックでのメダル獲得を最大の目標とし、有力選手の強化と国際大会への派遣を行う。

・FIVB世界選手権（オーストリア、7/28～8/6）

AVCアジアツアーにおける大陸出場枠の獲得から本大会での上位進出を目指す。

・FIVBワールドツアー（2月～8月まで23大会開催）

内、10大会に派遣

・AVCアジアツアー（4月～10月まで6大会開催）

内、6大会に派遣

2) ビーチバレーボール世代別男女日本代表チーム

将来有望選手の発掘、育成、強化を目的に、選抜した選手を十分な準備を行った上で以下の世代別国際大会に派遣する。

- ・AVC U-21 アジア選手権大会 (タイ、3/2~4)
- ・FIVB U-21 世界選手権 (中国、6/13~18)

②講習会開催事業

1) ビーチバレーボール審判講習会

ビーチバレーボールの審判員・競技者を対象に、ビーチバレーボールブロック審判講習会を開催する。更に、ビーチバレーボール選手及び指導者を対象に、ルール説明会を開催する。
(平成28年12月9日現在)

講習会名等	開催期間	開催都市	参加者数
全国ビーチバレーボール審判講習会	29.03.25~26	神奈川県川崎市	200名
ビーチバレーボールブロック審判講習会	29.5月~6月	会場調整中	100名
ビーチバレーボール審判員研修会	29.08.04~06	神奈川県川崎市	30名
A級審判員研修会(ビーチバレーボール)	29.08.16~18	大阪府岬町	30名
ビーチバレーボール指導者研修会	29.5月~10月	会場調整中	100名

*参加者は見込数

③全国大会等国内競技会開催事業

1) ジャパンビーチバレーボールツアー

2016年度より、これまでJVAが主催した「シリーズA」と日本ビーチバレーボール連盟が主催した「JBV ツアー」を統合し、「ジャパンビーチバレーボールツアー」として新たな大会を新設した。

日本におけるビーチバレーボール競技のより一層の確立と、日本から世界に羽ばたくビーチバレーボール選手の輩出を目的として、5月~10月に全国各地で大会を開催する。

<2017年度開催日並びに開催都市> (平成28年12月9日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアー	開催期間	開催都市
第1戦 東京大会	29.05.03~05	東京都港区 or 大田区
第2戦 伊予市大会	29.06.10~11	愛媛県伊予市
第3戦 南あわじ大会	29.07.01~02	兵庫県南あわじ市
第4戦 行橋大会	29.07.16~17	福岡県行橋市
第5戦 大洗大会	29.07.29~30	茨城県東茨城郡大洗町
第6戦 若狭おぼろ大会	29.08.05~06	福井県小浜市
第7戦 平塚大会	29.08.26~27	神奈川県平塚市

【ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル】

最大の目的である競技の確立と世界レベルで活躍する選手の輩出をより一層活性化し、最大限に引き出していくために、JVA主催大会や海外で活躍するトップ選手が一堂に会して競い合い、更に日本ビーチバレーボール界のモチベーションを高揚させていく。

(平成28年12月9日現在)

ジャパンビーチバレーボールツアーファイナル	開催期間	開催都市
グランフロント大阪大会	29.09.30~10.01	大阪府大阪市

2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技(正式競技)

大会名等	開催期間	開催都市
第72回国民体育大会	29.09.15~17	愛媛県伊予市

3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で実施する。

(平成 28 年 12 月 9 日現在)

大会名等	開催期間	開催都市
第 16 回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	29.08.04～07	大阪府阪南市
第 29 回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	調整中	神奈川県川崎市
第 28 回全日本ビーチバレー女子選手権大会	29.08.17～20	大阪府泉南郡岬町
ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	29.08.10～13	愛媛県伊予市
第 31 回ビーチバレージャパン	29.08.11～13	神奈川県藤沢市
第 8 回全国中学生ビーチバレー大会	調整中	神奈川県藤沢市

(7) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行っていく。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨する。

(8) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール 6 人制競技規則、同 9 人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売する。

(9) 肖像使用・バレとも・物品販売等公益事業の財源を獲得する事業

公益事業を安定的に推進するべく、以下の 3 事業を行う。

① 肖像使用許諾事業

本会登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分する。

② バレともサイト運営事業

本会のホームページに立ち上げているバレともサイトの運営を通じて、会費をいただき、チケットの先行販売、会員ならではの有用な情報を提供する。

③ バレーボール関連グッズの販売事業

バレーボールの魅力を高め、観る、する人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行う。

(10) 東京 2020 大会準備室

バレーボール競技、ビーチバレーボール競技及びシッティングバレーボール競技の成功に向け JVA 事務局に準備室を設置し、FIVB との連携の中、競技施設、競技運営、テストイベント、事前キャンプ、スポーツマネジャー選任にかかわる諸準備を行う。政府や東京都、そして公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との緊密な連携と積極的な協力を促進するとともに「アスリートファースト」及び「レガシープラン」を念頭に準備を進める。

(11) その他

- ① 2050年構想・中期計画（2016年から2020年）を実行に移す。
- ② コンプライアンス、ガバナンスの強化を推進する。
- ③ 「ファン目線」に立った広報活動を展開する。
- ③ 本会の事業戦略に適合したIT環境の整備と強化を図る。特に新MRS（個人登録管理）システムの開発を着実に推進する。
- ⑤ Vリーグ機構と緊密に連携して事業を展開する。また定例会ならびに主要事業の小委員会を継続的に実施し、積極的協力を促進する。

以上